

県士会ニュース

No. 195

Kanagawa Association of Occupational Therapists —KAOT—

Contents

TOPIC	巻頭言	1	
	子育てママ&パパの学会参加を応援しています！	2	
各部からの報告	2	研修会案内	7
理事会報告	5	連載 生活行為向上マネジメント	8
連載コラム ちよっと一杯どうですか？	6	事務局からのお願い	8
県士会ニュースへ求人広告を載せませんか？	7	編集後記	8



巻頭言

第17回神奈川県作業療法学会

演題採択委員長
北里大学病院

佐々木 秀一



第17回神奈川県作業療法学会では、新しい試みを二つ企画しています。一つ目の試みは、チャレンジ発表（15演題）という発表枠です。チャレンジ発表の対象は経験が5年目以下または学会発表が初めて行うという方で、発表後に経験豊富なスーパーバイザーからアドバイスをもらえます。発表者には日頃の実践の成果を思う存分ぶつけて欲しいですし、同程度の経験年数の参加者には自身の臨床や学会発表に向けて良い刺激になるかと思えます。

そして二つ目の試みは、最優秀演題賞とチャレンジ賞という学会賞の企画です。学会賞の審査は、抄録や発表をもとに論理性や新規性、プレゼンテーション力などを審査し選考する予定です。是非、発表される方には賞を狙って頂きたいと思えます。

私の経験上、学会発表は自分が行ってきた臨床実践を頭の中で整理する作業だと思っています。そのために発表では、日常に起こる臨床疑問を構造化し、自分たちが行ってきた介入の効果（アウトカム）をわかりやすく伝えることが重要です。私も初めての発表の際は、準備にものすごく

時間がかかり、まとまりのないスライドでとても合格点を与えられるものではありませんでした。それでも、発表を継続する事で、自分の伝えたいことが少しずつ表現できるようになってきました。百折不撓（ひやくせつふとう）とは言い過ぎかもしれませんが、学会発表は地道な積み重ねが必要かもしれません。若手の参加者の皆様には発表内容はもちろんですが、どのような発表がわかりやすいか、効果を何で示しているのかなど自分が発表する立場になって、発表を聞いてみることで次に自分が発表する時に参考になるのではないかと思います。

また、学会は人材交流には極めて適した場であると思います。私も発表において質問を受けたり、研究に対する励ましの言葉を頂き、さらなる研究の発展に繋がった経験をしています。本学会を通して、多くの神奈川県内のOTの方々と同じ悩みを共有したり、解決策を聞いたりし、積極的に交流を図って頂きたいと思えます。学会テーマである新たな作業療法時代へ、2019年7月21日にメルパルク横浜にて、会員皆様の学会参加をお持ちしております。

子育てママ＆パパの学会参加を応援しています！

子育て中の方が学会や研修会への参加を検討する際、常に「参加するためには子供を預けなければならない」というハードルが存在していると思います。近隣に子供を預けられる施設があったり、近くに親族が住んでいて手伝ってくれる場合などは問題ないですが、なかなか預けられない方も多いかと思えます。

第17回神奈川県作業療法学会のテーマは「新たな作業療法時代へ～change & challenge～」です。私たちも新たなチャレンジとして「子育て中のママやパパも参加しやすい環境を！」をコンセプトに、子どもスペース担当というポジションが新設しました。今までも学会では託児所を設けておりましたが、今回の学会では託児所はもちろんのこと、子どもたちがより楽しめるスペースを作っていきたいと考えております。

現在は大郷和成（遊びリパーク リノア）、佐々木露葉さん（麻生リハビリ総合病院）、安田優子さん（横浜旭中央総合病院）、鈴木智子さん（茅ヶ崎新北陵病院）の4名が中心となって進めて

います。もっと多くの方と一緒に子どもスペースを考えていきたいと思っておりますので、子育てに関心がある方や子どもが大好きな方、ぜひ一緒に子どもスペースをつくってみませんか？ご協力いただける方は下記までご連絡ください。

なお、子どもの遊び相手になってくれる当日ボランティアの方も募集致します。こちらにつきましてはHPや広報誌などで追ってお伝え致します。みなさまのご協力お待ちしております！



子どもスペース担当 大郷 和成（遊びリパークリノア）
E-mail: info@laulea-linoa.com

各部からの報告

教育部

連載「お届け！生涯教育制度、あれもこれも」

県士会ウェブサイトから質問ができます！

新年、年度末、間もなく新年度ですね。異動もあつたりしてあれこれです。そのスタートの前に皆さんの生涯教育制度の進度を改めて確認して、来年度の目標を立ててみませんか。また再開するのは勇気がいるますが、そういう人が増えています。認定作業療法士、意識せざるを得なくなり、キャリアとして必要となってきましたよ。以下いくつか考えられることを書きますので、ぜひ生涯教育手帳をご確認ください。

また、変化の多い年になりそうです。以下の9、10は要注意事項です。各種情報にご注ください。

1. そう言われても自分の現状がわからない。どうすればいい？！

→心配御無用。教育部までご連絡ください。次に行くことを一緒に検討しましょう。

2. 貼っていないシールがある。

→すぐに貼って月日や内容をご記入下さい。

3. 研修会の参加証明書や県士会役員や部員、事業の当日運営委員等の委嘱状がある。

→県士会事務局へポイント手続きする（参加証明書、委嘱状、手帳、OT協会会員証コピー、切手貼付・宛名明記の返信用封筒を県士会へ送付してください。

4. 基礎研修がまだ終わらない。

→まずは現職者共通、選択研修の修了、50ポイント取得して手続きへ。

5. 基礎研修は修了しているが、この先が…。

→基礎研修修了期間内に認定作業療法士取得を目指しましょう。ちなみに申請には50ポイントは不要です。

→認定作業療法士の申請に至らなくても、5年以内に50ポイントたったら基礎研修修了の更新をOT協会に申請して下さい。

6. 認定作業療法士にはなったが、更新期限が過ぎてしまい「もういいや！」とも思っているが、どうしたらいいか。

→期間延長や再認定試験を受験する等いくつか方法があります。以下にお問い合わせください。

7. そんなこと言っても、全然わからないんだけど…。

→いつでも以下にお問い合わせください。また県士会ウェブサイトの生涯教育制度コーナーからも質問できます。

8. あと、新人OTたちに協会と県士会の紹介と入会を勧めてください。そして生涯教育制度を利用した自己研鑽を促してください。また協会、県士会どちらかだけの入会はできず、両会への入会が必要になっています。

9. この春、生涯教育制度の管理システムが変更されます。今までの生涯教育手帳とポイントシールを使用しなくなります。全ては協会ホームページ内の会員ポータルサイトにて管理されます。この変更によって今後移行の手続きが必要となります。またかぁと思う方もいると思います。大きな移行は今回が最後だと思われま。詳細は協会の機関誌に掲載されますのでご確認ください。ご自身にあった制度の推進をお願いします。認定作業療法士の取得が各所にて求められてきています。ぜひ本制度を進めてください。

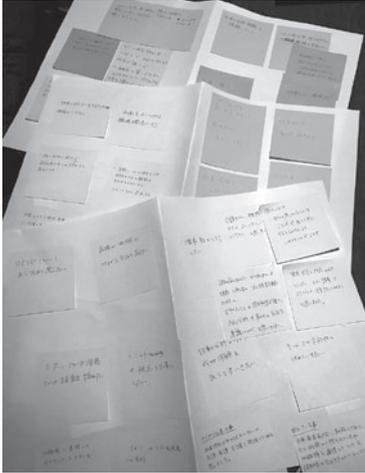
10. 加えて、厚生労働省の理学療法士及び作業療法士の学校養成施設指定規則の改定に伴って、平成32年度入学生の実習から実習指導者の資格要件が変更されます。①免許を受けた後5年以上の業務経験と②厚労省指定の臨床実習指導者講習会を受講していること、の両方を求めています。これに関して県士会でも本講習会を開催していく予定です。詳細は今後の県士会ニュースでご報告していきますのでご注意ください。作業療法士の養成、後輩育成は自身の学習にもなるし自身を守ることにもつながります。ぜひ養成教育、後輩育成にご協力ください。

〈問い合わせ先〉

教育部 奥原 孝幸（神奈川県立保健福祉大学）
046-828-2738（直）、kyoiku@kana-ot.jp

学術部

**■毎日の実践をもっと楽しみたい！
認知症の生活支援で私たちができること**



今年度2回目となる学術部主催精神分野の研修会では、「認知症の生活支援」をテーマに、介護老人保健施設鶴舞の城 事務長・作業療法士の渡邊信介先生と、初富保健病院通所リハビリ科・リハビリテーション科科长・理学療法士の小滝治美先生から講義をしていただきました。

渡邊先生からは、「病院や家ではできない(奪われてしまう)役割」「毎日の当たり前のADL」をどのようにし

たら実現できるかを多職種で考えていく大切さや方法についてお話し頂きました。

小滝先生からは、認知症の基礎知識、行動・心理症状(BPSD)を分析し、適切な行動を増やすための方法である応用行動分析の捉え方について、事例を通してお話し頂きました。

また、講義後は、毎日の臨床で困っていることを講義で得られたことをヒントに明日から臨床でやってみようと思ったことを共有するグループディスカッションを行いました。グループ毎に様々なアイデアが生まれたと同時に、講師からアドバイスをもらうなど、充実した研修となりました。

次回の研修は、臨床現場で活躍されている方々3名に集まっていたいただき、「クライシスプラン」をテーマに3月に開催予定です。OT1年目、経験者、他職種の方もお誘い合わせのうえ、多くの方に参加していただければと思います。

今年度最後の研修会になりますので、興味・関心のある方はぜひお申し込みください。

(文責：太田・川口)



■スキルアップ研修会「高次脳機能障害の作業療法～明日から使える、治療につながる評価の実際～」の活動報告

今年度3回目の学術部主催のスキルアップ研修会は、高次脳機能障害のスペシャリストである専門作業療法士の森下史子先生をお招きして、『高次脳機能障害の作業療法～明日から使える、治療につながる評価の実際～』を開催しました！

講義では、臨床でも悩む事が多い「半側空間無視」及び「失行」について、2本立てでお話しして頂きました。

内容としては、「半側空間無視」・「失行」における発生機序から様々な介入方法、評価結果から治療を構築する上での考え方など最新の知見を織り交ぜてお話しして頂き、まさに「明日から使える、治療につながる評価の実際」といった内容でした。また、症例検討では具体的な臨床的思考方法もお話しして頂き、参加者の皆様におかれましても有意義な時間となったのではないのでしょうか。

今年度の研修会も残すところ3つとなりましたが、どの研修会も魅力あるものばかりです。興味のある方は受講して頂けると幸いです。

(文責：梶原 真樹)



■スキルアップ研修会「研究ははじめの一步～押さえておきたい研究周辺知識～」の活動報告

2018年最後の学術部主催のスキルアップ研修会は、北里大学医学部医学博士である内田健太郎先生をお招きして、『研究』について講義して頂きました！

講義内容として、「作業療法士にとって」研究を学ぶ・行う意義とか何か、実際に研究を行う上での一連の流れについて、基礎的な内容から実践的な内容まで、具体的な方法や実際の体験談・コツを交えてお話しして頂きました。

研究というと「手が出しにくい」・「難しい」といったイメージでしたが、そんなイメージを払拭し、研究が身近に感じることが出来るような内容でした！

今年度の研修会も残り僅かとなりましたが、興味のある方は受講して頂けると幸いです。

(文責：梶原 真樹)



学術部

■スキルアップ研修会「リウマチの作業療法～私達 OT にできること～スプリント療法を中心に」の活動報告

今年度 4 回目の学術部主催のスキルアップ研修会は、病院長である長岡章平先生、薬剤師の鈴木良江先生、作業療法士の中西理佐子先生・牧田優佳先生・前田優先生と、横浜南共済病院の皆様方から講義をして頂きました。

長岡先生はリウマチの特徴から治療のエビデンスをお話して頂きました。また、鈴木先生はリウマチ治療に用いる薬物療法のポイントをお話して頂きました。

作業療法士の中西先生・牧田先生・前田先生は、リウマチの作業療法に必要な評価の流れやスプリント療法を行う上でのエビデンスや作業療法士として出来る事、症例報告や各時期に応じて



行ったスプリント療法をお話して頂きました。

また、座学だけではなく実際に母指 Z 型変形に対するスプリント作製を行い、実技も充実した研修会となりました。

今年度の研修会も残り僅かとなりましたが、興味のある方は受講して頂けると幸いです。
(文責：梶原 真樹)

地域リハビリテーション

■地域リハビリテーション人材育成研修会 2018 介護予防編 平成 30 年 10 月 25 日(日) ウィリング横浜



今年度の地域リハビリテーション人材育成研修会が開催されました。昨年の研修に引き続き、総合事業の実践編的な介護予防編と地域ケア会議にフォーカスした地域ケア会議編の二本立て研修で運営しています。

先立って行われた介護予防編においては総合事業の総論の講義から始まり、横浜市から保健師を招き行政の立場からみた介護予防事業の捉え方の講義に加えて、県士会地域包括ケアシステム推進委員会から横浜市地域リハ支援事業の講義、相模原市から二名の作業療法士における活動の紹介、最後にグループ評価の演習など盛りだくさんの内容で開催されました。

総論では日本作業療法士協会でも毎年実施されている人材育成研修会の参加報告があり、全国的に作業療法士の総合事業や地域ケア会議への関わりが少ないこと、参画する学習が不十分であること、県士会で育成した人材と各市町村における事業とのマッチングが図れていないことなどの課題が紹介されました。神奈川県内の介護予防事業では先進的に取り組んでいる横浜市・相模原市では作業療法士が積極的に活用されつつあります。



しかしここにも地域間格差が生じており、「作業療法士ってなにができるの?」と行政側からの言葉を頂いているとの紹介もあり、「各地域の作業療法士がその地域に責任をもって関わっていくこと。」が必要だと感じました。横浜市では P O S のリハビリテーション三職種の中で唯一作業療法士だけが活動依頼が増えているという喜ばしい報告もあり、作業療法士が地域の期待に応えていくことのできる存在だと他の市区町村にも訴えていきたいと思いました。

(文責：遠藤 陵児)

■地域リハビリテーション人材育成研修会 2018 地域ケア会議編 平成 30 年 11 月 25 日(日) 横浜 Y M C A 専門学校

10 月の介護予防編に引き続き、地域リハビリテーション人材育成研修会の地域ケア会議編が開催されました。地域ケア会議にフォーカスしたプログラムで企画され、地域包括ケアシステムの総論の講義に始まり、逗子市から行政職員を招き地域ケア会議の講義、横浜市・海老名市・藤沢市からそれぞれ作業療法士の地域ケア会議への参加報告、大分県から今年も作業療法士協会でご活躍されている入口氏をお招きし地域ケア会議の総論及び作業療法士の役割の講義、模擬ケア会議の演習が実施されました。前回の介護予防編同様、座学あり、各地域からの実践報告あり、演習も加わり盛り沢山の非常に中身のある研修でした。

介護予防に先進的に取り組んでいる大分県では、2015～2017 年の介護保険料の伸び率を全国で最も低く抑制できたそうです。ケアプランに理学療法士や作業療法士の意見を活かす地域ケア会議を全市町村に設置し、介護予防にも取り組んだ効果として紹介がありました。神奈川県内の地域ケア会議ではリハ専門職の活用はまだ十分とは言い切れず、各地域で作業療法士の関りが望まれる状況です。興味のある会員の方々、是非それぞれの地域へ出向かれてみてください。

地域ケア会議に求められていることは生活の視点に立った助言や医学や薬学の知識、義肢装具や福祉用具・住宅改修など幅広い知識であり、決して心身機能に突出した意見ではありません。外部者からみたりハ職の姿として「挨拶ができない・専門性を振りかざす・エビデンスを語りたがる・解決策を示せない・主役にな



地域リハビリテーション

りたがる…」などネガティブな意見も寄せられていることも事実です。社会人としての接遇を身に付け、自身の専門性に固執せず、かつリハ職らしい生活支援への助言ができるように地域で求められていることに向かい合っていきましょう！

最後に、10月・11月と二度の研修を実施しましたが、多くの参加者を集めることはできませんでした。今後は広報体制を見直していくことがまず必要ですし、会員の皆様に興味を持っていただける研修を企画できればと思いました。もしご意見が頂けるようであれば、お気軽に地域リハビリテーション部までご連絡ください。よろしくお願いいたします。(文責：遠藤 陵晃)



理事会報告

★平成30年(2018年)度10月理事会議事録

- I. 日 時：2018年10月18日(木) 19:00～21:10
- II. 場 所：神奈川県作業療法士会事務所
- III. 出席理事：錠内・木村・野々垣・金山・吉本・佐々木・奥原・神保・玖島・遠藤・野本・作田・澤口・佐藤・大郷(15名)
欠席理事：名古屋・村越(2名)
出席監事：糊澤・田中(2名)
その他：横山・池田(書記)

IV. 審議事項

1. 重点課題の要旨

(1)中間監査報告
糊澤監事より活動ならびに収支はおおむね健全に遂行されているが、上半期の事業活動の報告がない部署があることや各部署委員会の長は事業遂行および会計に関して管理責任をもち、今後も適正な運営に努めてほしいと報告がある。

(2)次年度事業計画について
1)中長期計画について
提案した中長期計画で承認される。次回総会にて報告予定。
2)各部の次年度計画について
各部・委員会の次年度の計画について発表した。

2. 審議項目の要旨

(1)事務局
1)エリア化構想準備委員会
現在までの進捗状況が報告される。第2回全体会が開催されることが提案される。
(2)公益法人化対策委員会
1)公益事業一覧表(案)の提案
次年度はすでに計画されているので次年度の参考にしていく。

3. 審議内容(詳細)報告

(1)事務局
1)神奈川県言語聴覚士会 会長変更 金井枝美氏
2)神奈川県立保健福祉大学 H30年度ヒューマンサービス公開講座 10月20日 13:00～かながわ県民センター
3)日本マネジメント学会第18回神奈川支部学術集会 前年度・今年度も後援

(2)学術部

- 1)脳血管疾患に対する運動機能改善のアプローチ(仮) 2019年1月20日(日) 10:30～
講師：田邊浩文氏(湘南医療大学保健医療学部リハビリテーション学科教授 作業療法士)
- 2)クライシスプラン&リスク管理(仮) 2019年2月
講師：星竜平氏(訪問看護ステーションみのり横浜 作業療法士)(予定)
武井寛道氏(藤沢病院 作業療法士)(予定)
立山和久氏(久里浜医療センター 作業療法士)(予定)
- ②平成30年度研究助成事業 支給者決定
研究I：佐野 邦典氏(横浜市立大学附属市民総合医療センター)
研究II：佐藤 範明氏(昭和大学附属烏山病院)
研究II：萩原 祐氏(湘南慶育病院)

(3)教育部

- 1)現職者選択研修：精神障害領域の作業療法 2019年2月24日(日)
「精神障害作業療法の基礎知識」水野健氏(昭和大学附属烏山病院)
「精神障害作業療法の展開」小砂哲太郎氏(久里浜医療センター)
「精神障害作業療法の実践」武井寛道氏(藤沢病院)
「精神障害作業療法関連のトピックス」魚岸実弦氏(横浜舞岡病院)

(4)地域リハビリテーション部

- 1)地域包括ケアシステム三団体合同研修会 2019年2月24日(日)
- 2)難病リハビリテーション講習会 2018 2019年2月10日(日) 予定
- 3)訪問リハ学術集会 2019年1月20日(日)
- 4)介護予防従事者研修会(県主催)
(ア)相模原会場(麻布大学) 2019年1月12日(土) 13日(日)
(イ)横浜会場(関内新井ホール) 2019年2月10日(日) 11日(月・祝)

(5)地域包括ケア推進委員会

- 1)地域包括ケアシンポジウム(委員会主催) 2019年1月13日(日) 以上(文責：横山・池田・金山)



ちょっと一杯 どうですか？

No. 9 「信頼」



『おじちゃん』って近所の子供たちに呼ばれている私も、自宅近くの病院に勤務する作業療法士。病院では、誰からも『〇〇先生』と呼ばれている。

2018年FIFAワールドカップでは、日本のチームの健闘が輝いた。少し前のこと。すっかり目の離せないワンプレー毎に興奮し、体内時計はすでに現地のロシア時間となってしまった。決勝トーナメントに進んだ日本。世界ランキング上位チームと堂々と戦った日本。誰もが勝ってくれると信じられるぐらいの素晴らしい試合をした日本が、ロスタイムで大逆転された。一瞬の出来事に茫然となり全身で悔しがる選手たち…。そんな彼らに対し試合後のインタビューで代表監督は代表選手にこんな言葉を掛けていた。「そのとき…背中を感じた芝生の感触、その時…見上げた空、空気を忘れるな」と。監督が受けていたプレッシャーは選手同様、あるいはそれ以上に相当たるものだと思う。試合が終わっても選手たち一人一人に“夢で終わるなよ”と背中を叩いて激励した言葉。なんとも素晴らしい“信頼”関係を築いた日本代表チームがそこにあった。“日本人らしい…こんなチームがあってもいいじゃないか！次も期待したい!!”と思ったが、監督は留任せず去っていく…。チームの健闘や負けっぶりも良かったが、監督の去り方も印象に残るシーンだった。

信頼関係が築く力は作業療法をはじめ、臨床心理や精神科領域では重要な治療手段として用いられている。ラポール (Rapport) を作る技術は、チームスポーツにおいてはどの監督にも備える必要がある共通点かと思う。ただ、今回のような短時間 (確か2ヶ月程度で本番) で1つの日本代表チームを作り上げるには、想像以上に、信頼・尊敬・依存・あこがれ・愛情をもつ陽性転移構造も上手に備わっていたのだろうと、考えてしまう。

先日、臨床経験豊富な同僚が、80歳前後の患者に怒られていた場面に遭遇した。『もっと、患者の事を考えてくれよ。まったく!』と声を荒げている。“なにがあつたのかな?”とその様子を眺めていると、どうやら暫く置き去りにされた状態で長いこと待たされたことに不満をもっていたようだ。担当が頭を下げ“すみません”と伝え、駆け寄り、“大丈夫ですか?何かありました?”と。『まったく!いい加減にしてくれ!』と患者が言うと“じゃ、今日は無理しないで帰りましょうか?”と担当が車いすを移動しようとした。患者は無言で『そうじゃないんだ』と言わんばかりに呆れた表情を作り、頭を横に数回振った。担当も“まだやりますか?”と問いをかける始末。沈黙の中、どう切り出していいのか患者も担当も流石に困っている様子で、担

当が“ちょっと待っていただけますか…”と切り出し、その場から姿を消して別の患者の所に駆け寄っている。優先すべき課題は何か…。

我々の目の前にいる患者は、それぞれの物語を背負っている病院の主人公だ。ちょっとした患者の葛藤がある場面の一部始終を目の当たりにした。目の前にいる主人公(達)の訴えをどんな想いで同僚は受け止めているのか、私は聞いてみたいと思い、あとで聞いてみた。なんとなく想定はできたが、案の定『忙しかったから…ゆっくり話を聞いてあげられなくて…。何で怒っていたんでしょうね?』と、反省もなく、そして追求もなく、自身の取った対応の事ではなく、その時が多忙であった事を全面に出し、論点はすり替わってしまった。困ったものだ。自分を中心に置き過ぎると、周囲との連携やマネージメントを失うことはよくあること。そして、ついつい口に出してしまう言葉の代表作『…ちょっと忙しい (忙しかった) から…』で締め括る。当然ながら様々な理由はあると思う。でも、患者を長時間置き去りにした事実と、患者の本心に担当者が向き合おうとしなかった結末は、患者の中では消えない事実となってしまった。この患者さんは、明日作業療法室に来てくれるのだろうか、と変な不安が過ぎってしまった。

たとえ職場が多忙な環境に変化しても、時間が経てば自然に元へと戻るものではない。だから、自分の言動に向き合う時間やちょっとした自己フィードバックの癖を常に身につけていると、新たな気づきが生まれたり、冷静な対処方法も湧いてくると思う。何事も経験だ…というけれど、主役である患者の気持ちを放置した責任は最終的には自分にあるはずだから。

日本代表監督が選手にかけた言葉も、我々が患者にかけた言葉も、『信頼』の上に成り立つ言葉となる。決勝トーナメント1回戦で惜しくも負けはしたが、言葉にならないそれ以上の感動があつたのは、この『信頼』が築いた“希望”を残したから。主役である患者との信頼関係が少しでもあると、こちらの一生懸命さは、少しは伝わるもの。たとえ運動制限や行動制限が解決し得なくても、“希望”や“夢”が残る作業療法でありたいものですね。皆さんの職場の作業療法室はどんな患者さんとのドラマがありますか?

今回も登場した“おじちゃん”。OTを一生涯の仕事と決意し、長いOTの歴史と共に奮闘している“おじちゃん”です。あくまでもおじちゃん視点での作業療法学を織り交ぜた連載コラムです。面白エピソード満載です。次回もお楽しみに。
(文責:ペンネーム おじちゃん)

県士会ニュースへ求人広告を載せませんか？

神奈川県士会員だけでなく、全国の作業療法士会の事務局、
関係団体にも送っています（発行部数 2300 部）。
全国に情報発信が可能です！偶数月 5 日までにご投稿ください！

掲載費用

A4 1 / 4 スペース 6,000 円

問い合わせ

一般社団法人神奈川県作業療法士会 事務局

TEL : 045-663-5997 (平日 10-15 時)

E-mail : kaot アットマーク kana-ot.jp

研修会案内

●発達から見る動作の回復過程

主催：療法士活性化委員会

日時：2019年2月16日

場所：ウィリング横浜

URL : <https://lts-seminar.jp/development-2/>

●杉山孝博 Dr. の「認知症の理解と援助研修講座」

主催：公益社団法人 認知症の人と家族の会

日時：2019年2月17日

場所：大和市渋谷学習センター

URL : <https://sites.google.com/site/kazokukanagawa/home>

●【東京】肩疾患に対する骨格・筋膜アプローチセミナー ～ADLと肩の問題、全身のつながりを学ぶ～

主催：一般社団法人 国際統合リハビリテーション協会

日時：2019年2月23日

場所：砂町文化センター

URL : https://iairjapan.jp/events/event/exp_shoulder-tokyo

●セラピストのための脳卒中身体機能へのアプローチ ～上肢機能編～

主催：高齢者をリハビリするセラピストのための研究会
—コウセラ—

日時：1日目：2019年2月24日、
2日目：2019年3月3日

場所：八洲学園大学

URL : <https://kouteraken.jimdo.com/>

●日本発達系作業療法学会 第7回学術大会

主催：日本発達系作業療法学会

日時：2019年3月3日

場所：千葉県立保健医療大学 幕張キャンパス

URL : <http://www.hattatuot.jp/congress.html>



生活行為向上マネジメント

会員諸氏におかれましては生活行為向上マネジメントの普及推進にご協力いただき御礼申し上げます。

今年度のMTDLP研修会(旧基礎研修会)の予定は下記の通りです。

開催日時は以下の通りです。ご確認のうえ、ウェブサイトからお申込みください。

第2回 2019年2月2日(土) 9:30~17:30

また、事例発表会を例年開催しておりますが、本県では事例発表会にご参加される方は多くありません。そのため事例発表会開催のコストを削減するため、開催場所は無料の会場(事業所)にいたします。

事例発表の準備が出来た会員の方は下記までご連絡ください。日程調整をして、1~5名程度の少人数で開催をしていきたいと思っております。

ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

《事例発表の準備》

- 1) 生活行為向上マネジメントシート (A4 1枚)
- 2) 生活行為課題分析シート (A4 1枚)
- 3) 抄録 (A4 1枚にまとめる)
 - イ) タイトル
 - ロ) 事例紹介
 - ハ) 作業療法評価
 - ニ) 作業療法計画
 - ホ) 介入経過
 - ヘ) 結果
 - ト) 考察

《連絡先》

下記アドレスにメールにてご連絡ください。

宛先: mtdlp@kana-ot.jp

件名: 「MTDLP 事例発表申込み」

(文責: 生活行為向上マネジメント推進委員会 木村 修介)

事務局からのお願い

- **休会される方** 来年度に休会予定の方は、前年の**12月31日**(末日消印有効)までに①『休会届』と②『証明書』を郵送でご提出願います。(FAX不可)。
- **退会される方** 年度内に退会予定の方は、**3月15日**までに『退会届』を①郵送又は②FAXにてご提出願います。(上記日必着)。
- **届出内容を変更される方** 住所・勤務先・氏名・送付先等の変更がある方は、『変更届』を①郵送又は②FAXにてご提出願います。(随時受付)。

届出書類は、神奈川県作業療法士会ホームページ公式ウェブサイトのINDEXより、ダウンロード可能です。なお期日までにご提出いただけない場合は、次年度の会費が自動引落としとなり、返金を致しかねます。

編集後記

明けましておめでとうございます！「平成」が終わり、いよいよ新年号となる年となりました。平成生まれの私からすると「平成生まれなんです」という、ある意味ブランドのような言葉がなくなってしまうので何だか悲しくなります。一方で、新しい時代が変わるので心機一転、新たな目標を考えております。皆様は新時代にどのような目標を立てていますか？皆様にとって良い年となるようお祈りいたします。(まつ)



一般社団法人 神奈川県作業療法士会ニュース (195号)2019年2月発行(年6回発行)

発行責任者 錠内 広之
 編集責任者 神保 武則
 編集担当 出口 弦舞(国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 作業療法学科)
 山岡 洸(湘南慶育病院) / 佐藤 愛(新戸塚病院)
 安田 優子(横浜旭中央総合病院) / 丸岡 ちひろ(済生会横浜市東部病院)
 井部 賢吾(ハートケア横浜小雀) / 松井 洋鷹(渚野辺総合病院)

印刷 発送 株式会社高陽印刷所
 事務局 〒231-0011 横浜市中区太田町 4-45 第一国際ビル 301 号
 TEL/FAX: 045-663-5997
 月火水木金 10:00~15:00
 メールアドレス: jimuj@kana-ot.jp

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ウェブサイト

<https://kana-ot.jp> → 作業療法 神奈川 検索

Facebook <https://www.facebook.com/kaotwebkan>

Twitter <https://twitter.com/kaotwebkan>

